

会 議 録

1 会議の名称	令和5年度 第3回越前市下水道事業推進対策協議会
2 開催日時	令和5年9月21日（木曜日）午後1時30分～午後2時30分
3 開催場所	越前市水循環センター 会議室
4 出席委員氏名	奥村会長 横住副会長 禿委員 加藤委員 牧井委員 小竹委員 大塚委員 眞柄委員 磯野委員 以上9名
5 欠席委員氏名	門前委員 水上委員 片山委員
6 事務局職員職氏名	建設部 松村部長 上下水道課 市村浄化センター所長 小谷副課長 中村副課長 飯塚主幹 齊藤主幹 正條主事 勝見主事
7 会議議題	(1)下水道整備基本構想の進捗状況について (2)下水道整備基本構想素案(仮)について
8 傍聴者の数	なし
9 会議資料の名称	令和5年度 第3回越前市下水道事業推進対策協議会 資料
10 会議の内容の要旨	<p>下水道整備基本構想の進捗状況および素案(仮)について下記議題に従い報告。取組内容や実施状況を確認し、今後の方針等を協議することにより、当該計画の実効性の確保を図った。</p> <p>議題1 下水道整備基本構想の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回協議会の主な内容について ・越前たけふ駅周辺区域からの汚水量について ・農業集落排水施設を対象とした都道府県構想マニュアルに基づく経済比較について ・事業効果について <p>議題1 下水道整備基本構想素案(仮)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下水道基本構想(素案)について <p>質問 白崎地区の農業集落排水について、前回の資料と計画人口は変わっていないが、排水量が増えているのはなぜか。</p> <p>回答 「その他の汚水量」として温泉施設の湯楽里の排水量を検討し、計上したため。</p> <p>質問 時間最大汚水量が日最大汚水量を上回っているが、時間最大は1時間の最大値ではないのか。</p> <p>回答 一日の中で水の使用量が増える時間帯（ピークになる時間帯）の汚水量を24時間に換算したものが時間最大汚水量である。日最大汚水量は年間を通じて最も多い日の汚水量である。時間最大汚水量は実測が難しいため、指針に基づき、日最大汚水量の1.5倍としている。</p> <p>質問 農業集落排水の検討で使用している「都道府県構想マニュアルに基づく経済比較」について説明してほしい。建設費などを公共下水道は汚水量で、農集は計画人口で算出するようになっていて、考え方が異なる式を一つにしているようだが、検討方法として妥当なのか説明してほしい。</p>

回答 公共下水道の処理場建設費は日最大汚水量を用いて算出し、耐用年数の33年で割って1年あたりの費用を求めている。そこに日最大汚水量を用いて算出した1年あたりの維持管理費を足して、年間いくらかかるのかを求めている。農業集落排水の建設費は計画人口を用いて算出し、耐用年数の33年で割って1年あたりの費用を求めている。維持管理費についても計画人口から算出し、建設費と足して年間の費用を求めている。公共下水道に接続する場合にかかる費用は、接続に必要な管渠延長を用いて整備費を求め、管渠の耐用年数である72年で割って算出した1年あたりの建設費に年間の維持管理費を足して求めている。実際の事業費と比べると当然差は出てくるが、公共下水道に接続した場合と農業集落排水を更新した場合のどちらが優位かを判定するため、同じ費用関数を用いて比較検討している

質問 平吹地区は家久処理区に統合するとなると日野川を渡ることになるが、東部処理区の方にも接続できるのではないかと。なぜ家久処理区に接続するのか。

回答 距離を計測すると家久の方が近く、マニュアルに基づく計算式で算出した費用を比較し、家久の方が安価であるという結果となったため。

質問 事業効果の表で、東部処理場は越前たけふ駅周辺と農業集落排水の2地区を追加しても計画処理能力を超えないということになっているが、施設が古くなると地下水の浸入なども想定される。現在、処理場の計画汚水量6750に対して150の余裕があるとなっているが、地下水等の浸入水の量が増えることもある程度把握しての数値なのか。

回答 東部処理場の池は現在2つあり、4500m³/日処理できる能力をもっているが、3池目をつくれば処理能力は6750m³/日となる。現在の流入量は約2600m³/日であり、毎年200m³/日ずつほど増加している。東部処理区は比較的管渠が新しく、不明水も比較的少ない処理区ではあるが、将来的に増えていくことも想定される。ただし、東部処理場はオキシデーショナルデイツ法で処理を行っており、例えば1日だけ6750m³/日を超えても、OD槽内での処理時間24時間を少し短くなることで調整ができる。地下水や雨水の影響で流入量が増える日が1日程度なら対処は可能である。

●令和5年度第4回目の協議会は令和5年11月6日に開催することとし、委員の了承を得た。